

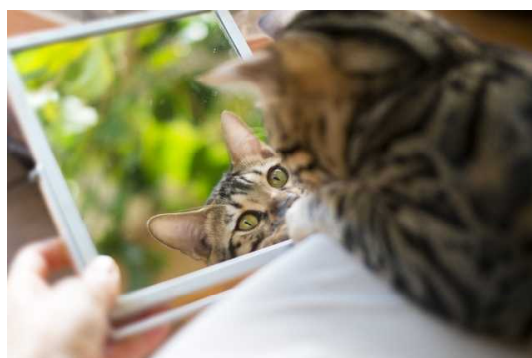
小さい頃、転んでケガをしたときなどに「痛い痛い飛んでいけー」、そんな言葉をかけてもらったことはありませんか？痛みがどこかに飛んでいくわけがないのに、何となく痛みが和らいだような気がしたり、気持ちが落ち着いたり・・・。

言葉には目には見えない力があります。単なる音ではありません。日本では昔から「言霊」といって、言葉には不思議な力が宿っていて、口にされた言葉は現実になると信じられてきました。良い言葉を使うと良いことが起こり、悪い言葉を使うと悪いことが起きるといことです。結婚式でケーキを「切る」の代わりに「ナイフを入れる」と言ったり、「終わります」の代わりに「お開きにします」と言うのも、この言霊と関係があります。日本人がいかに言葉の力を信じて大切にしてきたのかが分かります。

ことば研究家の高橋こうじさんが、こんなことを言っています。「自分の言葉を聞くことは、自分を鏡で見ているのと同じ。きれいな言葉を使っているうちに、自分を大切に思う心が自然と芽生えてきます。そして自分は美しい言葉を話すにふさわしい、価値のある人間なのだと思います」

言葉を大切にしていますか？「きもい」「うざい」というような心が貧しくなる言葉を使ってはいませんか。

「きもい」「うざい」といっているときの鏡に映る自分の顔はどんな顔をしているのでしょうか。きっと意地悪な顔になっているはず。言葉一つで悲しくなったり、落ち込んでしまうようなこともあれば、言葉一つで笑い合ったり、勇気づけられたりもします。言葉は冷たく鋭い凶器にもなりますが、温かく人を包み込む太陽にもなります。



「痛い痛い飛んでいけー」、何となく痛みが和らいだような気がしたりしたのは、その言葉の中に相手の思いやりや温もりを感じられたからだだと思います。今以上に温かい言葉で溢れる箕中にしていきましょう。

体育大会 各学年での優勝チーム

学年総合

1年1組

2年3組

3年3組

種目／学年	1年	2年	3年
男女混合リレー	1組	2組	1組
男子800mリレー	3組	3組	2組
女子400mリレー	1組	3組	3組
ブロック対抗リレー	1組チーム		

種目／学年	1年	2年	3年
大縄跳び	1組	2組	3組
綱引き	2組	3組	3組
玉入れ	2組	2組	3組

朝の結果発表で1年生混合リレーの結果を間違っ
 言ってしまいました。正しくは1組です。すみません。

